

厚岸湖・別寒辺牛湿原の汽水環境におけるトゲウオ科魚類の繁殖生態
(平成12年度厚岸湖・別寒辺牛湿原学術奨励補助研究概要)

北海道大学大学院水産科学研究科育種生物学講座 高橋 洋

厚岸湖・別寒辺牛川水系の下流部では，別寒辺牛川をはじめとする河川から入ってくる川の水と，厚岸湾から厚岸大橋の下を通過して厚岸湖へと入ってくる海の水が混ざり合っていて，川の水よりも塩っ辛く，海の水よりは塩っ辛くない，といった水，すなわち汽水の環境が広がっています．日本でも有数のこの広大な汽水環境は，カキやアサリ，シラウオやニシンといった水産上重要な魚介類をはじめ，様々な生き物にとってなくてはならない大切な生息環境です．

春先に厚岸湾や厚岸湖の周辺で行われるシラウオ漁の網に，目的のシラウオよりもたくさん入ってしまっていて漁師さんにご迷惑をかけているトゲウオ(トンギョ)は，この汽水域を巧みに利用して生きる代表的な小魚です．最近になって，厚岸には5種類ものトゲウオが生息していることが発見され，世界で最も多くの種類が一度に観察できる場所であることがわかりました．このうちの3種，背中に9本の棘を持つトミヨ汽水型，3本の棘を持つイトヨ太平洋型およびイトヨ日本海型が汽水域で観察できます．

これら3種類のトゲウオは，いずれも春，魚のくせに水草などで丁寧に巣を作り，子育てをして子孫を残します．トミヨ汽水型は，汽水環境の中でも塩分濃度の低い場所を選び繁殖します．そして，生まれてから死ぬまで，一生を主に汽水域で生活します．イトヨ太平洋型は，トミヨ汽水型と同じ様な場所で繁殖するものの，稚魚はしばらく塩分濃度の薄い場所で成長した後，海に下ります．それに対し，イトヨ日本海型は塩分濃度の比較的濃い汽水環境で繁殖し，稚魚は生まれてすぐに海に下ってしまうようです．

最近の新聞やテレビのニュースで，このような汽水環境が人の手によって破壊され，多くの生き物はその住みかを奪われ問題となっているのをよく見かけます．厚岸湖・別寒辺牛川水系は，原始のままの汽水環境が良く残っており，その中で3種類が独特の繁殖生態を示すトゲウオの仲間は，その多様性を端的に表す良い指標であるといえます．北欧などいくつかの地域では，水槽で単作り，求愛ダンス等を観察することが出来る学習教材として利用されており，厚岸の身近な生物・トゲウオも近い将来，教育・環境指標面で活躍できる日が来るのかもしれない．